

一句単独の部

【最優秀賞】

早朝の無音の校舎寒椿

荒井 よつば

【優秀賞】

のりこんでタクシーいっぱいゆやけ

武藤 龍之介

【佳作】

スコールに打たれる蛹応援す
手を振った君の最後の夏服かな
風船の色に八百屋を思ひ出す
カラフルな遊具を泣かす花の雨
秋蝶や恋文綴る如く揺る
天の川十指ほどけるマリア像
百日紅が褪せり十七の夏
青い空一筋の線銀やんま
夏日影ステンドグラスの部屋の窓
春疾風秘めし高鳴り乗せにけり

青葉 堇珠
穂田 進太郎
安和 音南
稲垣 優一朗
伊葉 小夏
宇都宮 駿介
小林 菜々美
今野 花南
関口 菜々子
関口 双葉

複数句の部

【最優秀賞】

かげろう

神尾 雛子

呼び鈴を押して見上げる辛夷かな
薔薇の花落ちて五割の雨予報
東屋のぬくき機体は猫を抱く
桜薬降りて一昨日より赤い
かたつむり恥じらいながら窓におり
明後日の浴衣あり網戸の向こう
裏道を見つけ未踏の草いきれ
床に寝て見えるとかげの目線かな
笹舟を流す子の背に雲を乗せ
サイレンにただ蜉蝣の沈みゆく
いがぐりを覗いては血を舐めにけり
にらの花枯れて畑は絡まりぬ
青虫の肌ぬくぬくと風を帯び
マスク取りて金木屋の記憶かな
月光の工事現場を包み込む
つま先で立って見ている富士の雪
一年の過ぐさびしさや初日の出
炭の香のする贈り物兵庫から
鬼を追う戸口の外や寒の雨
明け方に桜前線通り過ぐ